

—ユニットの導入を考えている先生へのメッセージをお願いします。

KaVoのユニットは、すべてにおいてプロフェッショナル・ユース。やりたい治療が具現化できる、最高のパフォーマンスを発揮できるユニットです。「そこまでは必要ない」というドクターも中にはいらっしゃると思いますが、簡単に言うと、それは妥協して“使いにくいものに自分の体を慣らしている”ということであり、ストレスにつながります。道具を使う仕事すべてに共通することだと思いますが、「最適な治療をするために、最適な道具を使う」ことが重要です。

新たに開業する場合は、まずは自分の診療スタイルをしっかりと確立することと、それに合った機器や材料を選ぶ必要があります。必ずしもフラッグシップモデルのユニットを買わないとKaVoの良さがわからないということではなく、先ほどお話ししたような特長を兼ね備えたモデルがほかにもありますから、それを使いながら、医院が成長するに従ってアップグレードしていくという方法でもいいと思います。そのうちに「KaVoを使っている」という誇り、も出てくると思います。

—現在、北海道口腔医療研究会の会長を務められていますが、より質の高い歯科治療のために心がけていることはありますか。

刺激と知識の供給をやめないこと。休みの日はほとんどスタディーグループ活動です。それが仕事だと思ってやるとつらいですが、新しい知識や技術を身に付けることが喜びだと感じています。歯科には、う蝕、歯周病、根の治療、詰め物、被せ物、義歯、矯正治療など多くの治療があり、求められる技術も多岐にわたりますが、「医療」としての「安心」を与えるには、幅広い治療においてレベルを高める必要があります。これからも総合的な歯科治療の提供に向けて、たゆみなく努力を続けていきたいと考えています。

Customer Information

ICHIOKA  
DENTAL OFFICE

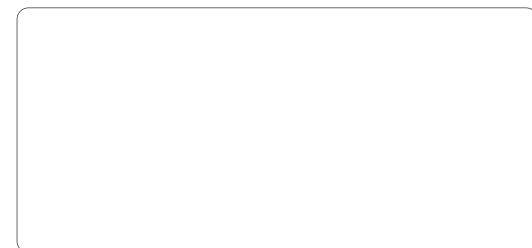
札幌市豊平区中の島2条4丁目4-10 中の島コンパウンド1階  
TEL: 011-832-3345  
<https://www.ichioka-do.com/>



院長 市岡 千春 先生

日本顎咬合学会 認定医  
北海道口腔医療研究会 会長  
日本インプラント学会 会員  
日本歯科顕微鏡学会 会員  
日本顎咬合学会 会員  
日本補綴学会 会員

Freunde(フロインデ)はドイツ語で友達を意味します。  
KaVo Freundeであるユーザーの皆さまに長く弊社製品をご愛顧いただけますようサービス向上に努めています。



※掲載されている写真にはオプションが搭載されている場合があります。  
※製品の仕様等は改良のため断りなく変更になる場合がございますのでご了承ください。

KAVO  
Dental Excellence

カボデンタルシステムズ株式会社

本社 〒140-0001 東京都品川区北品川4-7-35 Tel.03-6866-7480 Fax.03-6866-7481  
札幌支店: Tel.011-716-4694 Fax.011-716-4692 仙台支店: Tel.022-772-7375 Fax.022-772-7376  
東京支店: Tel.03-6866-7480 Fax.03-6866-7481 名古屋支店: Tel.052-238-1146 Fax.052-238-1567  
大阪支店: Tel.06-7711-0450 Fax.06-7711-0451 福岡支店: Tel.092-441-4516 Fax.092-472-1844  
<http://www.kavo.jp>  
VECPJB1903V1 EQU-085



総合的な歯科治療提供へのたゆみなき挑戦

より質の高い歯科治療を目指す札幌市豊平区の「市岡歯科医院」では開業当初から、その助けになる医療機器を積極的に導入してきました。その中でも、治療の核ともいえるユニットにKaVoを選ぶ理由を伺いました。

トータル力に優れた  
KaVoユニットが  
引き出す最高のパフォーマンス

市岡歯科医院 院長 市岡 千春 先生



KAVO  
Dental Excellence

## 優秀なドクターから選ばれるKaVoへの憧れ

—KaVoとの出会いはいつですか。

研修医時代に恩師がKaVo製品をフルでそろえていて、優秀なドクターから選ばれているメーカーだということですと憧れを持っていました。1991年に開業したときは資金が限られていたため、最初は国産メーカーの歯科用ユニットを使っていましたが、2年目にKaVoを導入して、徐々に入れ替えていきました。現在は4台あります。一番長いものと15年くらい使っていますが、そんなふうには見えなと思います。洗練された飽きのこないデザイン性なので古さを感じないというのも、魅力のひとつだと思います。

—KaVoトリートメントユニットのどのような点を評価されていますか。

ユニットは治療をする上で最も重要な道具です。「インスツルメントの質の高さ」という部分を一番要求してきましたし、いまもそこを一番評価しています。KaVoは安全に、思い通りに歯を切削できるというだけでなく、影ができにくい無影灯があり、バキュームの吸引力の強さもあり、というようにトータルのバランスがいいですね。

## KaVoタービン・5倍速コントラで多様な使い方が可能に

—臨床上のメリットをどう感じていますか。

KaVoのユニットではインスツルメントの回転数やトルクをあらかじめメモリー登録しておくことが可能で、ボタンひとつで呼び出すことができます。特にタービンが非常に優秀ですね。通常タービンはマイクロモーターに比べると低トルクなのですが、KaVoの場合は「高回転・高トルク」にすることが可能です。治療によっては、この「高回転・高トルク」を必要とする場合もあれば、「中速・高トルク」や「低速・低トルク」が必要なときもあります。「この場面では、この回転数、このトルクを使いたい」と思ったときに、そのメモリーを呼び出してフットコントローラをポンと踏むだけで、安心・安全かつスピーディーに治療を行うことができます。「間違っただけ動かない」というのが何よりも大事ですね。

常にフルスロットルでしかタービンを使えないと、治療の幅が狭まってしまいます。例えば、根管治療などでは、「ここは低トルクの方がいい」というようなときもあるのです。5倍速コントラだと高速でも低速でも高トルクになってしまうので、私はタービンを低トルクにして18万回転くらいで使います。「歯内療法でタービンを使う」というと、ほとんどの先生は驚かれると思いますが、KaVoユニットであればそれが可能です。国産メーカーのタービンでは、根管内では危なくて使えないのではないかと思います。ほかには、コンポジットレジンの研磨にも24~25万回転で使っています。無理な方向に進んだ場合には止まってくれるので、余計な切削がされず安全です。

これまで使ったものの中では最も芯ブレが少なく、独特のタービン音が最小限度に抑えられているため、音も静かです。単に安定回転するというだけでなく、手に持ったときのフィーリングも重要で、重量バランスがいいですね。毎分60mlという豊富な注水量、4方向からの注水という点でも、「歯を削る」ということに対して、常に新しい発想を持っていると思います。



もちろん5倍速コントラも使います。マイクロモーターの精度でもKaVoはトップクラスだと思います。最近のマイクロモーターは短くなったので、手によくなじみます。

KaVoの良さを話すと、どんどんマニアックな話になりますね(笑)。逆に言うと、そのマニアックさが必要な先生じゃないと、KaVoの良さはわからないと思います。つまり「治療へのこだわり」が「KaVoへのこだわり」になっていると思います。

水消毒システムについても、KaVoは最初に自動での衛生管理機能をユニットに導入したメーカーです。すべてのパーツで滅菌消毒が可能であるというのも、いまでこそ国産メーカーでも当たり前になりましたが、30年以上も前からそういう部分を意識して対応していたというのは、先進的だと思います。

無影灯については、5灯になって抜群によくなりました。スイッチがセンサー式に変わって手で触れなくていいので、非常に便利になりました。十分な明るさがある上に影ができにくいので、治療に集中しやすいです。この明るさに慣れてしまうと、たまにほかの医院で治療をすると、ライトがついているのに「ライトつけて」って頼んでしまうことがあります。「あ、ついてたんだ」って…(笑)

標準バキュームについても十分な吸引力があります。インプランターが内蔵されているので、ユニットまわりがシンプルになるのもいいですね。足元に普段と違うものがくるだけでミスタッチが多くなりますから、ユニットまわりが使い慣れたフットコントローラだけでセッティングできるメリットは大きいと思います。インプランターは重たいと言われていましたが、いま使っているものはそれほど重たさを感じません。



センサー式スイッチで最大40,000lxの高輝度照射 KaVo LUX 540 LED

## ベストな治療のために、ベストな道具を使う

—スタッフはKaVoをどう評価されていますか。

当院には歯科医が3人おりますが、私以外の2人は臨床の1年目からKaVoのユニットを使っているので、普段、その良さを実感することは少ないかもしれません。「ユニットってみんなこういう感じなんだろう」と。私もそうなのですが、ほかの医院に行って違うメーカーのものを触ったときに、「タービンってこんなに削れないの?」という感じで違いがわかるのです。「一度よいものを使ってしまうと戻れなくなる」という意味では、車なんかと似ているかもしれません。